東稲ニュース

第１１号

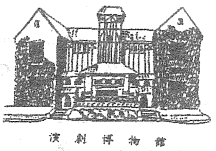
平成 15 年 5 月 10 日発行
発行責任者　高　橋　　勤
編集責任者　比護　喜一郎

早稲田大学東久留米稲門会

http://homepage2.nifty.com/35292/

会の告知版

５月３１日（土）東京六大学野球　早慶戦観戦会（詳細別紙案内状参照）
６月　１日（日）東久留米稲門会雑学塾（第９回）
成美教育文化会館１Ｆ　ギャラリーホール
１５：００～１６：３０
演題　「中高年の登山とその生理学」
講師　納見　明徳氏（当会会員　昭和３７年教育卒）
１日（日）定期役員会　１３：３０～　　於　成美教育文化会館
６月１５日（日）ウオーキング会（発会第１回）
６月１５日（日）集合時刻：午前９時　東久留米駅２階改札口前
コース：水元公園～江戸川堤～柴又帝釈天
費　用：約１、５００円。参加費として別途１人あたり３００円。
＊詳しくは別紙案内状をご覧になってください。


演劇博物館

［大学・校友会関係］
５月１２日（月）～１８日（日）　オール早稲田文化週間
１８日（日）　年次稲門会１０年祭
７月　２日（水）　第１４回「人生劇場の宴」１８：３０開演（受付１７：３０～）
於　日本プレスセンター１０階ホール（千代田区内幸町）
＊参加希望者は会費１万円を添えて、「人生劇場の宴」実行委員会（東五反田３－９－８－３０２　Tel/Fax 03-3280-6637）へ申し込み下さい.（６月１０日迄）
５日（土）　総長招待 都内稲門会長会／商議員会

［部会スケジュール］

太極拳部会	毎週土曜日　１０：００～１１：３０　成美教育文化会館１Ｆ ＊５月２４日（土）は野外稽古　於　所沢航空公園（予定）
俳句部会	５月１８日（日）例会　中央公民館　１３：３０～１７：００ 兼題　「葉桜」と「初夏の雑詠」
書道部会	毎月第２日曜日　　１３：３０～１６：００　於　中央公民館 ９月４日（木）－５日（金）夏季合宿　　於　熱海市「双柿舎」 １１月１５日（土）～１６日（日）第２回作品展　成美教育文化会館
囲碁部会	毎月第４日曜日　　１３：００～１６：３０　　成美教育文化会館
ゴルフ部会	６月　４日（水）　廣済堂埼玉ゴルフクラブ（詳細案内書一既報参照）
女性サークル部会	５月３０日（金）　桜台「唐澤博物館」見学
グルメ部会	７月　５日（土）　１３：００～ 於　秋津　ビストロ・ヌーボー マルシェ（仏料理） （委細後日ご案内）

雑　感　ー総会、新しい部会についてー

会長　高橋　勤

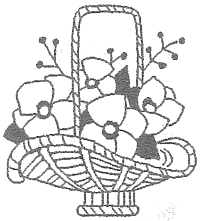
今年の総会は３月３０日に盛会のうちに終わった。稲門会の年間を通して最大の行事は総会であり、その準備に相当のエネルギーと時間を割かれ、終了後に稲門会の年度の部会活動がスタートすることになるのです。季節も冬から春に移り変わり行動のシーズンになっています。しかし、例年総会は４月の中旬以降に開催されていたため、会や部会の行動の始まりが 5月にずれこみ、６月には梅雨に入るために活動の期間が少なくなって、たとえば観桜会なども行っていません。総会は３月のうちに終わらせることが当会にとっては望ましいのです。年間を通して、季節的に行動に良い月は４月、５ 月で６月は梅雨となり夏は避けて、秋 ９、１０月と１１月は中頃までが適しています。今年は４月に入ると同時に、グルメ部会、山歩き部会、太極拳部会の桜の野外稽古（雨天中止）、俳句部会の吟行、麻雀会等々目白押しに行事を開始しています。これも３月に総会を終了している結果だと思います。ちなみに来年の総会は会場の都合で４月４日（日）、成美教育文化会館１階の大ホールで行います。講演会は講師にテレビ朝日のコメンテーター川村晃司氏（会員４８年文）にお願いしています。

今年新しく実行される本部行事としては、都内・近郊のウオーキング会と１６ミリ映画の映写会があります。ウオーキング会は、誰でもが歩ける平易な所を散策するもので、出来るだけ多くの会員に気軽に参加して戴くことを目的としたものです。季節にあわせて草花に接し、時には史跡や寺社を訪ね歩き、会員の皆様と親睦を図り、健康の保持につながれば幸いです。予定では隔月に開催し、５～９キロ程度の距離を歩くことを計画しています。第１回は６月１５日の「水元公園～江戸川堤～柴又帝釈天　散策の会」が決定しています。是非参加して下さい。

映画の映写会については昨年１１月に１６ミリ映画の「鉄道員（ぽっぽや）」を開催しています。ただ現状は１６ミリ映画は後退しており、ビデオにその地位を明け渡している状況です。今までに調べたところ、往年の懐かしい名画はビデオに多くあり、ビデオによる映写も検討し、これからの映写会に役立てたいと考えています。

今、構想している新しい企画として「厨房を楽しむ会」（仮称）があります。四季折々の食材をもとに料理を楽しむわけです。東稲ニュースにも料理のレシピの投稿欄があり、ぜひ味わいたいものです。以前から蕎麦打ちの会、ギョウザの会など話題になったこともあります。皆様の賛成を得られれば会を立ち上げても良いかと思っています。

会の基本となるのは部会活動です。会員の誰でも気軽に参加できる行事、部会を増やし、交流の場を作ることが組織の強化、会の発展につながるのです。今後共皆様のご協力をお願い致します。



会の行事

平成１５年度第９回東久留米稲門会定時総会開催

平成１５年３月３０日（日）午後３時半から第９回定時総会が、早稲田大学から村岡洋一副学長と村上裕二総長室調査役、清瀬稲門会から中根正雄会長と大畠薫事務局長、小平稲門会から西村弘会長と高木武二副会長、東村山稲門会から大西幸夫会長と三宅良太副会長、西東京稲門会から平野豊副会長、東久留米三田会（４月２０日設立）から佐藤柳次郎氏と金田政也氏が臨席の下、会員６５名が出席して、市内の成美教育文化会館１階ギャラリーホールで開催された。総会に先立って、午後２時から恒例の文化講演会が開催され、栄田卓弘早稲田大学名誉教授による『反骨の言論人・浮田和民ー早稲田大学草創期の巨人ー』の講演が行われた。講演終了後、井坂宏副会長が総会の開催を告げ、高橋会長が挨拶と来賓紹介を行ってから議事に入っ

た。市川英雄副会長が議長に選出されて、平成１４年度事業報告と収支決算報告、平成１５年度事業計画案と収支予算案、さらに役員改選（詳細後述「東稲広報室」参照）が議題として提案され、全案件とも異議なく承認された。続いて、早稲田大学の村岡副学長の祝辞、村上調査役の創立１２５周年記念事業募金の現況説明と協力要請があり、最後に三田会の佐藤柳次郎氏から祝辞があり、総会は終了した。

４時半、会場を３階の大研修室に移して、吉川明美女性サークル部長が進行役を務めて、東村山稲門会の大西会長の祝辞のあと安宅武一名誉会長の乾杯の発声で懇親会を開宴。途中新入会員７人の紹介をはさみ、さらに談笑の輪が広がったところで、大矢真弘幹事の指揮で、慶応の応援歌「若き血」を歌って三田会にエールを送り、最後に早稲田の校歌を高らかに斉唱して、６時過ぎ盛況のうちに終宴となった。

平成１５年度第２回役員会

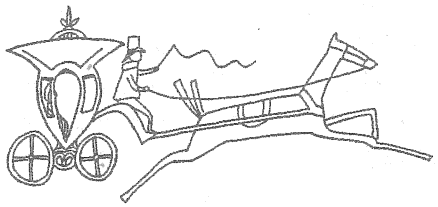
４月２４日（木）夕、新任役員を交えて役員会を開催。下記決定をみた。

（１）来年度の第１０回定時総会を平成16年４月４日（日）に開催。文化講演会は、川村晃司氏（昭和４８年文卒）に要請する。

（２）ウオーキング会、土屋久郎会長補佐として、帆角事務局長、森田幹事、久家監事を選任。

（３）本年度稲門祭実行委員として、平山正徑／石寺美弥子両幹事を選任。

（４）現時点会費納入者は新加入者９名を含む１４１名。未納者３０名については早急に督促状を送付する。



部会便り

散策山歩き部会

４月６日（日）好天に恵まれて、「奥武蔵・顔振峠ハイキング」が参加者８名にて行われた。

東久留米駅より西武線に乗り吾野駅にて下車。駅前にて準備体操を行い勇んで出発。桜の見頃には少々早くまだ２分咲きという感じだった。東久留米ではもう花びらが散り始めたのに随分違うものだと驚いた。

今年の初めに下見に来た川上部会長以下世話人のお陰でスムーズに登り始めた。中には２０年ぶりという方がおられ、感慨深かそうだった。

ウグイスの鳴き声を聞きながら汗をかきつつ峠の山路を登った。頂上の顔振峠からの奥武蔵、奥多摩の景色は素晴らしく、特に白雪をかぶった武甲山が美しかった。見晴らしの良い一本杉峠での昼食は格別で、皆さんの雑談もなごやかだった。

帰路は尾根沿いにアップダウンを繰り返す山路を歩き、山合いの集落を経て東吾野駅に向かった。幸い上りの電車がすぐあり東久留米へ４時半頃着いた。所要時間約６時間のとても楽しい一日を過ごす事が出来た。　（森田隆記）

女性サークル部会

女性サークルは、他の稲門会ではあまり見られない部会だそうです。部員は忙しい人ばかりですが、それでもここまで続いてきたのは、無理をしない活動や部員がこのサークルの集まりを楽しみにし、大切にしてきたお陰だと思います。今年度も楽しく有意義な活動を部員の皆様と共に考えていきたいと思っております。

４月に開かれた例会で、５月に「唐澤博物館」の見学を行うことが決まりました。秋には、他の会員もお誘いできる企画をと考えておりますので、その節はよろしくお願いします。

（部会長　吉川明美記）

書道部会

去る４月の例会時に、中央公民館において行草書体の条幅（自由課題の創作品）の内覧会が実施されました。武藤先生の模範作品を始め十数人の部員の意欲的で個性的な書が展示され雄

勁で流麗感の溢れた美の世界が展開されました。
（一）落款を含め条幅のバランスをとること、（二）字の強弱、大小、軽重等を意識し、線に変化を出すこと、（表現のバリエーション）（三）線に潤渇の変化をだすこと。（四）誘眼点を絞りポイントを示すこと、（五）言葉の如く「多書」「多観」「多聞」し、書いて書いて書きまくり、風格をだすこと、等を評定留意の観点として、それぞれの提出作品について、先生、ベテラン部員から有意義な講評と指導がなされました。大字に挑戦して日が浅いので、筆の使い方、字に潤渇の変化を出す方法等活発な質問も出されました。

今秋開催される第２回作品展では、自由課題の創作品の外に、古典の条幅二、三行書作品が加わることになりました。楷書、行書、草書のそれぞれの古典の手本の中から各自が得意とする書体を選択し挑戦することになり、五月以降の学習課題となりました。

（深澤政次記）

グルメ部会

第４回グルメ探訪ー手打ちそばと柳瀬川の桜を楽しむ

４月１日正午、一行１２名、清瀬駅に集合。バスを団地保育園前で降り、柳瀬川の堤の桜並木をそぞろ歩く。昨日のうすら寒さが嘘のようなポカポカの暖かい陽気に恵まれ、満開まではもう一歩ながら、見事な桜をしばし楽しむ。

城前橋から住宅地に入り、円通寺に立ち寄る。暦応３年（１３４０）の建立といわれる古刹で、山門や長屋門、本堂、鐘楼など鎌倉期の典型的な伽藍配置である。

しもた家が点在する淋しいところを進み、武蔵野線をくぐって、軒家で掛けられている暖簾で、やっと蕎麦屋と気のつくような店、今日の会場の手打ちそばの店・下宿「池添」に着く。無口でいかにも純朴そうな主人と活発な奥さんの二人だけでやっている。

主人手作りのこだわりのつまみ類がまず供される。板わさ、コブシの花の酢漬けと花わさびの醤油漬けが添えられている。とろけるように柔らかな豚角煮、野草の天ぷらはたらの芽、蕗の薹、ししうど、にわとこの新芽など。　続いてそばいなりとお新香。揚げそばにトバ（鮭の干物）添え。そばがきのつゆは本鰹節のだしがよく効いて上品。もりそばは、国内産のそばの実をその日、石臼で挽いてつなぎを使わずに打ったもので、十割とは思えない滑らかさである。静岡の銘酒・臥龍梅、宮崎の焼酎・仲仲のそば湯割が、これらのつまみに合い、時の経つのも忘れ、古い柱時計が４時を告げるのを聞いて、漸くお開きとなった。

参加された俳句部員の三田さんが、一句寄せてくれる。

春うらら　そばと地酒と　古時計

翌日は、また冷たい雨に逆戻り。日頃の行いの良い我々のために、すばらしい一日をプレゼントしてくれた天気の神様に感謝。

（部会長　神田尚計記）

俳句部会

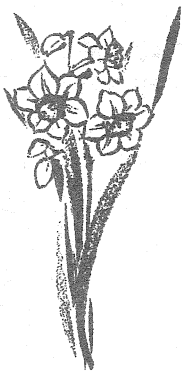
奥多摩吉野梅郷吟行ー４月２０日、９時４５分、花小金井駅に集合し一路青梅に向かった。生憎の雨であったが、新会員の川島さんを含む１４名が参加された。１１時日向和田に到着、まず多摩川神代橋を渡り、腹ごしらえとばかり石挽きそば「松葉屋」へ。大半の人がとろろ冷やしそばを注文したが、味の方は定かではない。吉野街道にでるとその街道沿いが吉野梅郷である。２月下旬から３月下旬にかけて梅見の人々ですごく賑わうところである。一部会員は梅の公園に行き、又吉川英治記念館へ行く会員もあった。吉川英治は昭和１９年から２８年までの約１０年間この吉野に住んだ。英治は小説のほか早くから川柳に親しみ、俳句も少なからず残している。即席即興のものが多いが、代表的な句として、「雨しとど　どの窓からも萩すすき」「秋蘭けてのこる浅間と画家一人」がある。

三椏や白すみれ、二輪草など珍しい草花を観賞しながら、島山重忠ゆかりの即清寺を参詣する。三々五々本日宿泊する国民年金健康保養センターへ。１６時より全員集合し句会が始まる。（高得点句下記）　翌２１日は朝食後、現地解散となった。

（部会顧問　太田蔵之助記）

○３月２３日第４６回句会　兼題「東風」「春雑詠」　席題「鶯」　高得点句（５点以上）

鶯の声に手を置く廚事	太田蔵之助（千雪）
やわらかに和紙の目かくし納め雛	〃
花馬酔木たわわに妖し仏みち	大久保泰司
東風吹く日戦火の迫る音を聞く	杉本　達夫



○４月２０日第４２回句会（奥多摩ー吉野梅郷吟行）　高得点句（４点以上）

花過ぎし吉野梅郷昼閑（ひるしずか）	神田　尚計
遅桜煙霞の中の一樹かな	〃
乗り継ぎてきし青梅路や遅桜	橘　　正治（雅契）
青き瀞ねらう釣果や花うぐい	安宅　武一

麻雀部会

４月２９日（火ーみどりの日）太田晴之助さん宅にて第２回麻雀会開催。参加者は１０名。２卓・２抜けの半チャン４回をお酒やコーヒーなどを飲みながらゆったりとしたペースで行い、７時半頃ゲームは終了。それから簡単な表彰式を行い、８時１５分頃お開きとなりました。１位は実力を発揮した白石さん、２位は太田さん、３位は中島さんでした。　（帆角信美記）

囲碁部会

今年になって、西東京稲門会の囲碁部員の有志（約３名）が当部会の例会日に合流し、当部員と一体となって烏鷺を戦わせている。

また、来る６月２１日（土）には、東村山稲門会との対局が同市市民センターで予定されているが、この機会に西東京の連中も誘い、三地区の親善と段級位のレベル合わせなど行っていきたいと思っている。　（部会長 辰巳徳蔵）

＜会員リレーエッセイ＞　噴　水　広　場

中　国　雑　感

久家　政裕（昭和３４年商卒）

私は或る縁があって、中国上海に親戚が出来ました。上海郊外のマンションに住む李、胡夫妻を、平成１３年９月、１４年９月の二度訪問し、上海を基点に延べ１８日間中国旅行を楽しみました。団体でなく個人旅行です。そこで団体旅行では体験出来ない事を含めて、私なりの中国観を述べたいと思います。

中国では、男の子は父親の姓を、女の子は母親の姓を名乗るとの事で、日本と違って結婚すれば同一姓名にはならないとの事です。最近日本でも別々の姓名でも良いのではとの考えが話題になっている様ですが・・・。

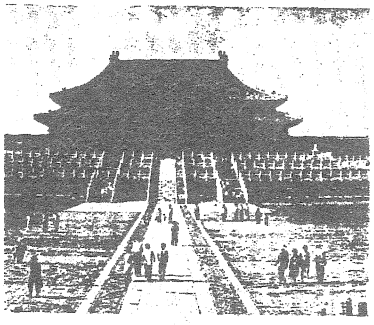
上海、北京には高層マンションが林立しています。マンションの購入は箱物だけで、内装は各自の資金と好みに合わせて調達するとの事、これも完全に出来上がった物件を購入する日本とは違うようです。契約は３２年間。３２年後国家に計画があり、延長が駄目になれば破棄になります。そこで、気付きました。北京は２００８年のオリンピックへ向けて高速道路の建設、街の整備で、昔ながらの庶民的な町、胡同（フートン）が容赦なく取り壊されているのを、土地は総て国有だからできるのでしょう。又上海、北京の車の多い事、それも殆どがタクシーです。一人で乗車する時は運転手の横に座るのが決まりです。運転手の周り、足許はスチールで上はアクリル樹脂でガードされており何と感じの悪い事か、これも治安が悪いからでしょう。それに日本の晴天の様な青空を見た事が有りません。やはり公害や黄砂のせいではないかと思いました。

上海から抗州、蘇州へ高速道路を走行して行った時の事です。途中サービスエリアに寄りトイレに行きましたところ、何と汚い事、トイレットペイパーは有りません。各自が紙を持っていて置いてある籠の中に捨てるのです。水洗が詰まるからです。又列車で上海から紹興に行った時の事です。急行列車でしたが、トイレに行きました所、便器もなく穴があいているだけで、足踏の廻りも汚くてびっくりしました。

話は変わりますが、上海、北京、西安共に町中に有料トイレが有り、２角（３円）程取られますが、汚い事には変わり有りません。一方、各観光地のトイレは水洗できれいにして有ります。外国人が多いからではないかと感じました。

私も年のせいか早起きタイプで、上海、北京、西安、紹興で早朝散歩に同行させてもらいました。町中、郊外に公園が有り、早朝から中高年の人々が散歩、運動（種々の器具が設置してある）をしたり、太極拳をやっている姿を見て、何とも平和だなあと感じました。又各々の朝市場を覗いてみましたが、野菜類は日本にない物も多く有り、肉類は豚はブロックで、家鴨、鶏は生きたまま、魚類は川魚が９月後半でしたから、上海蟹、スッポンの多い事！　又干物類も多く活気が有り食材の豊富なのに驚きました。

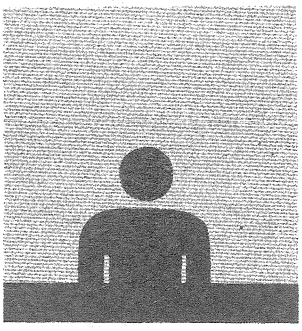
紹興では何よりも酒、居酒屋は何軒も有りますが、有名店に案内してもらいズラリと並べられたカメ、自分の好みを選ぶ楽しさ、日本で賞味した事のない酒も有りました。又骨董品店街を散策中、町外れに十数件の食堂を見付けましたが、昼食で客も多くいました。途中、刀削麺の店があり勇気を以て歩道のテーブルに座り、トマト味スープで注文、何とおいしい事か。値段は２．５元（４０円）でした。上海でも早朝から開いているお粥専門店に行きました。各々トッピングの具材を注文しての朝食。これまた何とおいしい事か。値段も２～３元程。観光コースの北京ダック、上海料理、西安名物餃子も結構で、一般庶民の食材の豊かさ、安さ、うまさを体験した次第です。



話は変わりますが、紹興では駅前に待機している輪タクを２日間チャーターしました。現在上海では全面禁止、北京では郊外に一部残っている様ですが、何とも風情があっていいものです。町中を縦横に水路が通い、その脇に人々が暮らしている長屋を走り抜けて、魯迅記念館、東湖等を巡り、汗びっしょりで２日間案内してくれました。感激しました。値段は４０元でしたが、チップ１０元を加えて５０元（７００円）を払うと大喜びしてくれました。

最近、新聞等日本の経済、生産手段は中国に全部持って行かれる。中国におびやかされる等中国脅威論が話題になっています。一部で急速に発展しているのは認めますが、１３億の人々が、日本の様に平準化するにはまだまだ年月が掛かると思います。でも私は中国大好き人間になりました。

最後になりましたが、中国の李、胡夫妻にも日本に来てもらい、日本で正月を迎えてもらいました。箱根に案内、富士山、温泉、大涌谷の噴煙、温泉卵等々中国にない体験をして帰国してもらいました。



第８回文化講演会－要約

３月３０日（日）開催された第９回定時総会に先立って恒例の文化講演会が開かれた。

講師は当会顧問で早稲田大学名誉教授である栄田卓弘氏。演題は「反骨の言論人　浮田和民－早稲田大学草創期の巨人－」。

講師は西洋史が専攻で、「近代イギリスの自由と史」、「歴史と歴史家たち」、「ヨーロッパの光の中で」のほか、著書、訳書、研究発表など多数ある。

「反骨の言論人　浮田和民ー早稲田大学草創期の巨人ー」

栄田卓弘（当会顧問・早稲田大学名誉教授）

浮田和民は、同志社から早稲田大学の前身東京専門学校に転じ、４４年にわたり西洋史学、社会学、政治学などを講じ、その優れた学識をもって大隈重信のブレーンとして草創期から早稲田大学に貢献した。のみならず、彼は約１０年間、綜合雑誌『太陽』に拠ってその合理的、自由主義的、民主主義的で雄渾な論説をもって言論界で指導的役割を演じた。ここではこの巨匠の全貌を紹介するのではなく、『太陽』に執筆した時期までの時流に抗して一歩もひかぬ言論のいくつかを紹介した。

浮田は安政元年（１８５９）、肥後藩士の子として生まれ、明治４年（１８７１）熊本洋学校に入り、ジョーンズの影響を受けてキリスト教徒になった。明治９年（１８７６）熊本郊外の花岡山での奉教趣意書の署名者の一人となり、日本のプロテスタント史に名を止めることになる。しかしその後の迫害により、彼らの多くは新島襄の同志社に移ることになった。卒業後、浮田は同志社政治学校の講師となり、エール大学にも留学したが、明治７年『六合雑誌』に書いた論文が外人教師の激昂を買い退職。同年、東京専門学校に転じ、以後早稲田に腰を据えることになった。

彼は英米流の、特にイギリス流の議会政治、政党政治を日本に根づかせようと努め、特に『太陽』に発表した諸論文は、吉野作造に大きな影響を与え、大正デモクラシーの先駆者となった。のみならず、浮田は婦人問題にも大きな関心を有し、男女の社会不平等を排することに努め、平塚雷鳥の主張にも同情を示した。とりわけ女子教育の重要性を強調したばかりでなく婦人参政権をも主張している。浮田の反骨的な主張の第一は、いわゆる「俘虜留学論」である。事の起りは、日露戦争中の明治３７年（１９０４）６月１５日に起った常陸丸・佐渡丸事件である。両輸送船はロシア艦隊に襲撃され、常陸丸は沈没、佐渡丸は大破したが、そのさい、将校の大部分は割腹またはピストル自殺を遂げたと報ぜられ、彼らは武士道の鑑として賞賛を博した。しかしやがてそれは誤報で、彼らは捕虜収容所で安穏な生活をしていることが判明すると、世論は一変し、彼らを国民の恥さらしとし、今からでも自決すべきであるという議論が沸き起った。これに対し浮田は激しく反論した。その論点の第一は、挙国一致で戦論なのは困る、一方につねに平和論も存在しなければならないというのである。いま一つは、討死は名誉ではなく、自刃するのは特に悪い。出来るだけ身を全うして国のためにつくすのがよい。捕虜になるのは恥ずべきことではなく、むしろ向こうの費用で留学したようなもので、その国を知る絶好の機会だと論じた。義務のために死すのはよいが名誉のために死ぬのは悪いと彼は論ずる。これは欧米流の考えで武士道の行き過ぎを改めようとしたのである。これに対し、鬼将軍佐藤正はこれに猛烈に反論し、日本軍が連戦連勝するのは、日本兵が義務のためではなく、名誉のために戦うからであること、また主戦論と非戦論の問題については、二つの論が両立し得るのは開戦前のことで、開戦後は非戦論は許されず、挙国一致が必要であると説いた。浮田と佐藤との論争についてさまざまな意見が開陳されたが、いかなる反対論に対しても浮田は断じて自説を曲げることはなかったのである。大正元年９月１２日の乃木将軍の殉死にさいしても、これを武士道の鑑とし、日本道徳の積極的実現であるとする世論に対し、また将軍の殉死を『時弊に対する清涼剤』とする風潮に対し、浮田は反対する。もとより浮田は将軍の心情や志の高さを認める。しかし彼が批判するのは、ほとんど全ての人が殉死に賛同し少数意見が無視されていること、殉死の形式を国民の規範とすべきでないこと、また清涼剤といっても、将軍の死は軍国の民を発奮させるとしても、立憲国民、実業国民としての日本人にはそれほど効果があるとは思えないということである。このような見解に対し天下の攻撃が一身に集まっても浮田は動ずることはなかった。教育勅語についても浮田はその限界を容赦なく指摘した。勅語は国民意識を強固にするには十分だが、人道のためには不十分である。一個人のためには孔子、釈迦そしてキリスト教をも師表としなければならない。つまり世界的視野の必要を彼は説くのである。「南北朝政閏問題」は、明治４４年（１９１１）、国定教科書『尋常小学校日本史』について、以後南朝を正統とし北朝を無視することに桂内閣が決定したことから生じた。浮田は、

北朝は三種の神器こそ持たなかったが多年実際の政治を執ってきたという理由から、北朝の正統性を主張して譲らなかった。この問題は学問の自由への圧迫として有名だが、浮田は問題を史学上の問題として学者の自由討論にゆだねよと主張し、当局の干渉を排した。浮田は反動派から国賊扱いされたが、自説を曲げることはなかったのである。

東稲広報室

役員異動

松崎　博（昭和３５年理工卒）　副会長に就任（前幹事）
神田尚計（昭和３２年政経卒）　幹事に就任（前会計監事）
鮎貝盛和（昭和３５年理工卒）　〃　（新）
塚越　崇（昭和４３年政経卒）　〃　（新）
久家政裕（昭和３４年商卒）　会計監事に就任（新）
幹事退任（３名）　藤井淳次（３９年商）、泉　信吾（４０年法）、鈴木　徹（５７年商）

東久留米三田会が発足

４月２０日午後６時から成美会館で東久留米三田会の設立総会が慶大関係者及び近隣三田会関係者が臨席して、市内在住の卒業生５０名により開催され、出席者全員の賛同で、東久留米三田会が正式に発足した。初代会長に、高橋是行氏（昭１７年卒）が就かれ、副会長に佐藤柳次郎氏（昭３７年卒）他が選出された。当三田会の発足時会員数は１０６名。
当稲門会から高橋会長、松崎副会長、帆角事務局長が来賓として出席。高橋会長が祝辞を述べ、三田会よりは親密な交流を求める発言があった。

会員の声

＜評釈幸田露伴　芭蕉七部集を読んで＞　松田　博雄（昭和２８年政経卒）

俳句部員として、露伴評釈　芭蕉七部集を読んだ。本書の中で、「静御前に舞をすすむる－其角の段－」での頼朝の部下達のやりとりが、一番興味ある場面と思う。一読をおすすめしたい。

七部集は「冬の日抄」、「春の日抄」、「曠野抄」、「ひさご抄」、「猿蓑抄」、「灰債抄」、「続猿蓑抄」からなり、「静御前に舞をすすむる」は「曠野抄」に記されている。

私のレシピ

松崎　洋子（松崎博氏夫人）

白、黒の練りゴマを使って元気百倍！付きだしとデザートです。

料理メモ①　（ごま豆腐）　白練りゴマ50ｇ・くず粉50ｇ・水500ccをよく混ぜ合わせ、かき混ぜながら火にかけて固まり始めたら10分練る。流し缶に流し、冷えたらわさび醤油で。

料理メモ②　（ごまプリン）黒練りごま35g･牛乳500cc･砂糖50ｇ･ゼラチン11ｇをかき混ぜながら沸騰寸前まで火にかける。とろみが付くまで時々かき混ぜながら冷ます。

［編集後記］佐々本が投げて、松井が打って、イチローが打球を追う。メジャーリーグも日常的になって、何のことはない日本にプロ野球３リーグが出来上がったようだ。いささか誇大妄想的だが、阪神タイガースの快進撃は日本の春の珍事（今年は違うぞ、と言う声あり）ではなく、いまや米国を含む世界の春の珍事と言えるのではないか。新緑の神宮の杜で六大学野球も始まっている。今野球が面白い。